

造影剤二段階注入法を用いた肺動静脈分離CT Angiographyの臨床応用

本学で実施しております以下の研究についてお知らせいたします。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究課題名	造影剤二段階注入法を用いた肺動静脈分離CT Angiographyの臨床応用
倫理審査 受付番号	第3991号
研究期間	2022年 2月16日～2025年12月31日
研究対象情報の 取得期間	下記の期間に、胸部疾患で動脈相を必要とする検査のうち、肺癌手術支援画像検査、肺血栓塞栓症およびその疑いのある疾患に対する検査を行った患者さん 2017年 8月 1日～2022年 2月16日
研究に用いる 試料・情報	画像

研究概要	（研究目的、意義） ＜研究目的＞ 造影剤二段階注入法とは、造影剤のみの注入から生理食塩水で造影剤を希釈しながらの注入へと変化させる造影剤注入法です。この注入方法を肺癌の手術前の検査や、肺血栓塞栓症（エコノミークラス症候群）の検査に応用すると、1回の撮影で肺の動脈と静脈に濃度差をつけることができます。本研究では、二段階注入法と最適化した撮影条件を組み合わせ、どのCT装置でも撮影できる肺動静脈撮影方法を考案することです。本研究では、画像情報のみで評価するため、その他の患者情報やデータは使用しません。 ＜研究意義＞ 従来の肺動静脈撮影では、肺動脈の撮影と、肺静脈の撮影を分けて2回撮影されていました。しかし、本研究で考案する撮影法は造影剤注入を工夫することで、1回の撮影で肺動静脈に濃度差をつけるため、被ばくが半分に抑えられます。 （研究の方法） 肺癌の手術前の検査や、肺血栓塞栓症（エコノミークラス症候群）の患者さんを対象とします。従来の造影剤注入法と二段階注入法により肺動静脈分離撮影された画像データを使用して肺動脈および肺静脈の濃度を測定します。その濃度差がどの程度ついているかについて評価します。 （個人情報の取り扱い） 通常検査で撮像した画像は PACS へ転送を行います。PACS 画像を CD出力する場合は研究用として匿名化出力を行います。胸部CT画像のみを使用しますので、臨床情報は不要です。画像データを取得する際に、対象者情報に個人認識番号を付し、個人認識番号の対応表を作成し匿名化を行います。 国が定めた「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。
本研究に関する 連絡先	兵庫医科大学病院 放射線技術部 琴浦 規子（研究責任者） 桐木 雅人（実施責任者） TEL （平日 8：30～16：45） 0798-45-6259 （上記時間外） 0798-45-6126